

	<p>7 女性に対するあらゆる暴力の根絶</p> <p>被害者に対する職務関係者の配慮の徹底</p> <p>配偶者暴力防止法が対象としている被害者には、日本在住の外国人（在留資格の有無を問わない。）や障害のある人も当然含まれていることに十分留意しつつ、その立場に配慮することを徹底する。</p> <p>一時保護</p> <p>高齢者、障害者等である被害者に対し、適切に対応できるよう、婦人相談所一時保護所の必要な環境改善を進める。</p>	<p>第9分野 女性に対するあらゆる暴力の根絶</p> <p><基本的考え方></p> <p>子ども、高齢者、障害者、外国人等はそれぞれ異なる背景事情や影響を有していることから、これらの被害者の支援に当たっては様々な困難を伴うものであることにも十分配慮し、暴力の形態や被害者の属性等に応じてきめ細かく対応することが不可欠となっている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、女性に対する暴力を根絶するため、社会的認識の徹底等根絶のための基盤整備を行うとともに、配偶者からの暴力、性犯罪等、暴力の形態に応じた幅広い取組を総合的に推進する。</p> <p>ア 関係機関の取組及び連携に関する基本的事項</p> <p>④被害者に対する職務関係者の配慮の徹底</p> <p>・配偶者暴力防止法が対象としている被害者には、日本在住の外国人（在留資格の有無を問わない。）や障害のある人も当然含まれていることに十分留意しつつ、その立場に配慮することを徹底する。</p> <p>ウ 被害者の保護及び自立支援</p> <p>④一時保護</p> <p>・婦人相談所において、被害者の安全の確保や心身の健康回復が十分に行われるよう、民間シェルター等の積極的活用等による適切かつ効果的な一時保護の実施を促す。</p> <p>・高齢者、障害者等である被害者に対し、適切に対応できるよう、婦人相談所一時保護所の必要な環境改善を進める。</p>
--	--	--

書誌リスト 複合差別の様相

障害のある女性の場合

臼井 久美子

1. 目的

法制度の転換期を迎えている今、日本社会で障害があり女性であるという複合した属性をもつ人が実際にどのような経験をしているか、背後にある障害者差別と性差別は具体的にどのようなものか、どのように複合しているのか、可視化と分析が求められている。個々人の経験は、量的調査や統計から言えることと並んで、「何が差別でどうそれをなくしていくか」にかかわる重要なものである。このリストの作成目的は、障害のある女性に関する書籍・文献・映像作品の目録と索引を提供することである。書籍・文献は便宜上区分して、女性としての経験と障害者としての経験の双方に踏み込んでいるものなど、各区分について1冊を紹介する。

2. リストの区分・体裁について

書誌リスト（表 2）は各区分タイトル名五十音順で、編著者リスト（表 3）の数字は書誌リスト通番と対応する。表 4 に映像作品リストを掲載する。

表 1

区分	項目
1	全身性障害・肢体障害
2	視覚障害
3	聴覚障害
4	精神障害
5	知的障害
6	見えるものと見えないもの
7	難病
8	優生思想
9	クロスディスアビリティ・全般
10	セクシュアリティ
11	女性のなかのマイノリティ
12	障害のない女性・障害のある女性
13	世界・国際連帯
14	国内外の法と政策

3. いくつかの書誌の紹介

3-1 全身性障害・肢体障害

6: エンジョイ自立生活 障害を最高の恵みとして

著者は1951年に四国で生まれてまもなくカリエスにかかった。入所した施設は男女混合の大部屋生活で、裸体での診察に男子医学生が承諾もなく立ち会う、「ありがとう、すみません」しか言わない態度が良しとされるなど、自尊心をもてない体験を重ねた。税理士になり結婚せずに一人で生きていく人生設計を描いていた。年上の人と親しくなり大学時代から一緒に暮らし始めたこと、そしてADA (Americans with Disabilities Act 障害をもつアメリカ人法 1990年) 制定前後の米国に単身滞在したことが、人生の大きな転機となる。

「『女性である前に、人間である前に、障害者として見られている』日本ではその感じしか自分もつことはなかったのです。障害者は性をもたない存在であるかのように、自分自身もいつのまにか思っていたのです。そんな私が、アメリカで感じた視線は、何の前提もない一人の女性にたいする視線であり、女性であることと障害者であることは、何も対立するものではありませんでした」(p115)。帰国後、日本初の自立生活センター設立に加わり、DPI女性障害者ネットワークを呼びかけ代表者として障害女性の自立と優生保護法撤廃に取り組み、1994年からは東京都町田市議をつとめた。125: は本書の続編にあたる。1986年当時の状況について著者は「運動に参加する女性は男性の十分の一くらいで、男性を支える役が多かった。一般社会の男女の性的役割分担がそのまま入っていて、家事のできない女はだめというレッテルが貼られている」(p117-8)と述べている。この点は現在どこまで変化しているだろうか。

区分1の編著者には1970年代から各地あるいは全国のグループで活動した障害女性も多く、さまざまな違いをもちながらも、個性を発揮し影響を与え合ってきたことがうかがえる。16: CP女の会、20: 貧困と労働、15: 障害のある身体による表現、5: 、13: 、144: 、154: 性と性愛など。ポリオや脊髄損傷、骨形成不全、脳性まひなどで全身的な障害のある女性が、問題や矛盾に直面しながら活動してきた歴史は、国際的にみても日本の特色と言える。

3-2 視覚障害

38: しなやかに生きる見えない女たち

1950年代から70年代に生まれた、14人の視覚障害のある女性がそれぞれの生活史から執筆している。タイトルに「見えないからこそできる私の仕事」「命と障害をリレーする」「たかが子育て、されど子育て」「道の途中」「私と点字とシャンソンと」など。

執筆者のひとり佐々木貞子は、初期のDPI女性障害者ネットワークを通じて自立生活運動に出会い、月経介助軽減のための不妊手術や知的障害女性への性的虐待という深刻な現実を知った。2010年に114: のパネリストとして「自立生活運動に出会って、既存の母親像の束縛から脱し、新たな価値に気づいたことは、自分にとって大きな人生の転換点となった」と述べている。同時に、「お子さんが女の子でよかったですね」

と言われ、娘は「あなたがしっかりしなさい」等と周囲から言われてきた経験に触れて、「障害のある母親は子育てができない、あるいは不十分にしか行なえない」というイメージがあると指摘し、「問題を個人や家族の中に閉じ込めないで」などのメッセージを発している（資料から要約）。関連書籍に 40：がある。上の話は、「ケアは家族のなかでおこなうべきもの、女性がケアすべきもの」を当然の前提としてきている日本の制度と慣習の普遍的な問題も照らしだしている。

3-3 聴覚障害

44：高等教育における聴覚障害者の自立支援

題名からは想像しにくいですが、教育や就業はもとより社会生活・個人生活のあらゆる面で、「聞こえないこと」と「女性であること」がどのように関わっているのか、聴覚障害のある女性の生涯にわたる生活自立にテーマが置かれている。1章3節「女性と聞こえないことについて」、3章「ある女子大学にみる聴覚障害者支援」、4章「女性聴覚障害者の生活自立に向けて」など。このテーマの米国の先行研究についても詳しく書かれている。筆者が1章3節で「女性聴覚障害者の諸問題を網羅している最新のテキスト」と紹介している *Women and Deafness: Double Visions* は、邦訳が特に待たれる。著者は耳が聞こえない研究者でその体験や考察も随所に記述されていることも本書の特色である。

2011年2月には「昭和を切り拓いたろう女性からあなたへ」（企画:ろう女性史編集プロジェクト 撮影/編集:今村綾子）が完成し上映・頒布されている（表4映像作品リスト参照）。

3-4 精神障害

52：統合失調症を生きる

本書には3人の女性がその体験を書いている。たとえば家業に家事や家族の心配も加わる過労のなかで発症した体験には、日常的に女性にかかっていることがらの重さがうかがわれる。執筆者の重複する本に 49：などがある。精神障害のある女性に限らないことだが、精神障害のある女性がジェンダーの視点で女性という立場から著述したものはまだ数少ないようだ。

3-5 知的障害

63：もう施設には帰らない—知的障害のある21人の声

女性の語りのタイトルは「施設は臆病な人間をつくる場所です」「一人で何かやることは教えられませんでした」「30年、ほんまに長かった。施設に戻るのはいやです」など。大部屋でプライバシーがなく自由がないこと、その環境で生理痛のひどいときなどは特に大変だったこと、職員をいつも気にしていなければならない生活、着る服も決められていておしゃれもできないのが絶対にいやだった、ものを考えないほうが楽だった、という声がある。施設に家庭科があってクッションをつくったりしていた、外での仕事も洗濯や掃除だった、など、性別分業は施設内や障害のある人にも強く反映していることがうかがえる。「もし入所施設ではなくて高等養護学校に入っ

ていたら今とは違う一生になっていただろう、結婚していたかもしれない」と話している人もいます。今は施設から出てグループホームにいる人のひとは、親しくなった人との交際を「妊娠したらどうする、一人で生活できないだろう」と、兄が認めようとしな、という。この本に登場する 21 人中女性は 6 人、この本に限らず、また、障害の種別にかかわらず、障害女性の声に発する文章や語りは相対的に少ない。その背後に何がありどのような取り組みが必要かということも大きな課題である。

3-6 見えるものと見えないもの

65：顔にあざのある女たち

序章「顔にあざのある女性たちの苦しみを可視化する」に始まり、先行研究や方法論の解説を挟んで一連のインタビューを収録している。サブタイトルに「問題経験の語り」とあるように、「女性の外見とジェンダー」、あるいは「容貌障害」という把握や「美醜」の範疇には納まらない問題経験と対処をしてきたことが語られている。そのことは、本書にも触れられているとおり、外からは見えない障害やセクシュアリティなどの属性、「軽度障害」とされる人々の経験とも重なり合うところがある。それぞれのインタビューや、インタビュアーの筆者自身が、以前はどう考えていたか、今はどうか、どう対処してきているかも率直に綴られている。6 章から終章にかけては「問題経験の軽減」も念頭において、インタビューを通して見えてきたいいくつかの論点を記述している。

3-7 難病

68：ALS・告知・選択 人工呼吸器をつけますか？

女性はジェンダーのもとでケアすべき存在とされてきている。女性が、ケアできない人・ケアされる人になったとき、同じ障害や病気であっても男性とは全く異なる経験をせざるをえない。ALSにかかった人のなかで、呼吸器をつけずに亡くなる人には女性が多く、男性は病状が進行したとき呼吸器をつけて家族の女性からケアを得て生活していることのほうが多い。当事者や身近にいる人には知られてきたことだが、はっきりしたデータはなく関心も向けられてこなかった。この本はその点について第 3 章第 2 節「ALS とジェンダーをめぐって」で、既存の資料をもとに掘り下げて記述し、男性がケアする人となった場合についても紙数を割いている。

「ジェンダーの情報が不足しているというよりは、ジェンダーには情報としての価値がないと考えられている」「病気になった人は患者というカテゴリーへと一括りにされてしまい、無性化されている。そのため、人工呼吸器の装着を選択した患者の性別については、情報が存在しないのではなく、性という切り口から掘り下げることが研究者から大切だと思われておらず、ただ埋もれているだけなのであろう」（p126）という指摘は、さまざまな障害や病気についても言えることである。

3-8 優生思想

89：優生保護法が犯した罪

第一条に「不良な子孫の発生予防」をかかげる旧「優生保護法」下で、意思に反し

て優生手術を受けさせられたり、違法に子宮摘出された人たちがいる。本書は、1996年に同法が「母体保護法」に改められる前後にわたって取り組んだ人々が、証言を掘り起こし、日本の優生保護法がどのような人権侵害を犯してきたのか、日本政府はいま何をすべきかを念頭に編集執筆している。(1)声にできなかった想い、(2)優生保護法を問いなおす、(3)日本だけじゃない—諸外国の動向、(4)謝罪と補償を求める運動の経過の4部構成で資料も詳しい。

優生思想は、親による障害児殺しと親の減刑を求める嘆願運動を大きな契機に、日本の障害当事者運動が立ち上がってきたときからの先鋭なテーマであり、とりわけ障害のある女性は、「生まれてきてはいけない、産むのもダメ」という重層的な抑圧の根源に優生保護法、優生思想があると問題をとらえて活動してきた人が少なくない。不妊手術について明るみにでた衝撃は、当時のさまざまな文章や語りにもみることができる。政府の謝罪と補償は今なお実現していない。

リストに掲載が漏れたが「母体保護法と私たち—中絶・多胎減数・不妊手術をめぐる社会と制度」齋藤有紀子編著（明石書店 2002年）も母体保護法についてのさまざまな意見と情報を集約している。

映像作品に、子宮コバルト照射によって不妊と健康被害をもつことになり、謝罪を求め続けている佐々木千鶴子さんの生活を追った作品がある（表4映像作品リスト参照）。二作目が2010年に完成して各地で上映されている。

3-9 クロスディスアビリティ・全般

121：女性障害者とジェンダー

聴覚障害5名、視覚障害4名、内部障害1名、重複障害4名、肢体障害16名、あわせて30名の障害女性への聞き取り調査をもとにした論文である。調査は「女性であり障害者であるという二重の社会的不利の構造を明らかにするために」実施された。著者も障害女性で、この研究は、障害者一般の自立生活支援の研究をするうちに、障害者のなかでも男性が抱えずにすんでいる問題が女性にはのしかかかっていて、その一方で女性が必要としているサービスや支援は提供されていないために、男性以上に女性は生活しにくいのではないかという疑問を抱えてきたことに発している（要約）。本書のあとがきには、そうした動機や、障害分野にもフェミニズム分野にも先行研究がほとんどなく、障害者団体にインタビューを求めても障害女性とつながることが極めて難しかったことが、詳しく述べられている。出版後の著者インタビューが122：にある。著者は2010年に127：にもかかわった。本書は区分11とも重なるがクロスディスアビリティの面からここに含めた。

3-10 セクシュアリティ

149：障害女性とセクシュアリティの「間」に何があるのか

150：障害当事者運動はどのように性を問題化してきたか

ともに「セクシュアリティの障害学」所収。「恋愛・結婚・生殖」「ロマンチック・ラブ」が女性一般にとって呪縛になってきたことは以前から指摘されてきたが、障害のある女性の場合は、どのような経験をし、考え、発言し、語り合ってきたのか。150：

は 1990 年代の車いす市民集会をつぶさに追った論考である。149: は、「障害者と性」や「恋愛と性」の語られ方および語られないことに着目しながら、非障害女性の立場での経験してきたこと考えてきたことと重ね合わせて執筆されている。

区分 1 にも障害女性によって書かれたテーマの重なる書籍があり、映像作品に「シカゴ発！セックスと障害とビデオテープ」がある（表 4 映像作品リスト参照）。

3-1-1 女性のなかのマイノリティ 部落出身・在日外国人・障害など

155: 笑顔を取り戻した女たち

第 1 章は「インタビューからみえる『必要とされる支援』」をテーマに、被差別部落出身女性 4 名、在日コリアン女性 2 名、障害をもつ女性 3 名それぞれの声があり、分野ごとに、編著者が考察を寄せている。第 2 章「DV 調査の方法と課題」の末尾には関連の調査統計も収録。巻末の「本調査の限界と意義」は、今後同様の調査を検討する人や団体に多くの示唆を与える内容である。在日外国人かつ難病をもつ自立障害女性による 157: は介護者や若い障害者に書き残す動機で、生活史、家族との関係、ほかの女性たちとの交流についても書かれている。3: も若者むけに著述された。

3-1-2 障害のない女性・障害のある女性

170: のびやかな「自立生活」と「労働」をめざして

副題は「障害者が働くこと/障害者介助という労働」。「働く/働かない/フェミニズム—家事労働と賃労働の呪縛?!」の三章三節に納められた文章で、「自給自足から社会的システムへ」「介助をささえる女たち」「労働の価値観の変革を」の中見出しがつけられている。障害者の自立生活運動と女性たちの運動の交差するところにおいて、問題の根源と未来をみつめてきた筆者たちの経験が基本にある。とくに下記の引用箇所は今読んでも古びていないだけでなく新しい意味をもって立ちあがってくる。

(引用)

一般的に労働とは、「生計を維持するため」に行うものだ。私たち障害者を苦しめる「働かざる者、食うべからず」という言葉は、そこから生まれたものと思われる。しかし、基本的に人間は「生産力があるか否か」「労働可能か否か」に拠るのではなく、無条件に「生きること」が保障されなければならないはずだ。いい換えれば、「生きるため」に必要な金は、「労働に依って」ではなく、生きていくという事実のもとに、無条件に保障されるべきなのだ。その前提のもとで、個々人の能力に応じて、可能なかたちで労働に参加すればいい。本来、「生計を維持するための金」と「労働」とは、切り離されるべきなのだと思う。私たち障害者は、生産性を求める労働には乗り切れないと開き直った後、ほんとうに自分たちのやりたいこと、必要なことを通して社会参加の場を創りだしてきた。そして「生計維持のための金」（この部分が生活保護であることの是非や、年金額の低さ等、問題は山積みだが）は、別のところから支給されている。私はむしろこのかたちが一般社会に広がってほしいと思う。そしてまた、私たちの「社会参加」

を「労働」として位置づけていくためには、「労働」そのものの価値観も変らなければならない。(p295-296・引用以上)

3-13 世界・国際連帯

190：女性障害者・人権・虐待（分科会記録）

DPI 日本会議と 2002 年第 6 回 DPI 世界会議札幌大会組織委員会が編集した本に納められており、この節以外にも随所に障害女性の声を見ることができる。112 の国と地域、3,400 人以上が参加した DPI 世界会議札幌大会の全体会・記念講演、あわせて 40 の分科会での議論の総報告集。国連・障害者の権利条約制定へ向けての議論他、国際・国内障害者運動の最前線の記録となっている。2007 年には韓国で大会が開催され、障害女性について複数の分科会が設けられた。その報告は 193：に、前後に日本で開催した障害女性による集会の報告が 186：、192：に掲載されている。

また、このリストには挙げきれなかったが、DPI 日本会議はその国際協力・連帯活動でアジア・アフリカ地域の障害女性ともつながりを持ち、季刊「われら自身の声」グラビアや連結世界コーナーにも断続的に寄稿や報告を掲載している。175：は短い記述ながら序章でアジアの障害者のなかの障害女性に視点をあてている。

3-14 国内外の法と政策

204：障害のある女性の権利について（平野）

「障害者の権利条約でこう変わる Q&A」の Q6 の文章。筆者自身、障害女性であり、権利条約の成立過程に参加した経験もふまえて、わかりやすく書かれている。筆者の最近の地方条例制定にむけた活動が 129：にある。国内政策は、2010 年度に障害者政策のなかの障害女性、女性政策のなかの障害女性について 203：、210：の変化があり、199：、212：はその過程で書かれた。

4. 補遺

1. の冒頭に述べたことは、障害者権利条約に照らして法制度と政策、環境を変えていくうえで、今後さらに重要性を増していくテーマである。文献調査とあわせて、語られたことやまだ言葉になっていない経験を、必要な確認・合意を形成しながら可視化することも課題であり、障害女性当事者をはじめとする団体が、現在、方法の検討を進めている。

瀬山紀子さんには大切に保管されてきた蔵書の閲覧をはじめとしてご協力をいただいた。今回収録できなかった書籍資料の追加や詳細な分析はこれからの調査研究に引き継げるようにしたい。

表2 書誌リスト

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
1	ありのままの女(ワタシ)が好き! 1 DPIほか編	DPI 他 第4回世界女性会議NGOフォーラム参加報告集	1995/11
2	あんドーナツ「ひとりで暮らすよ」と言えるまで 1 村山美和	七七舎/筒井書房	1995/08/19
3	生きることのはじまり 1 金満里	筑摩書房	1996/08/25
4	いのちの手紙 1 飯多鶴子・千葉敦子	筑摩書房	1983/01
5	癒しのセクシー・トリップ—わたしは車イスの私が好き! 1 安積遊歩	太郎次郎社	1993/11
6	エンジョイ自立生活 障害を最高の恵みとして 1 樋口恵子	現代書館	1998/02/05
7	おきなわ土の宿物語 1 木村浩子	小学館	1995/07
8	幼き物語 1 飯田鶴子	晶文社	1992/04
9	薫ing 1 岡田なおこ	岩崎書店	1991/11
10	神への告発 1 飯多鶴子	筑摩書房	1977/06
11	共生へ—障害をもつ仲間との30年 1 山本勝美	岩波書店	1999/06
12	口からうんちが出るように手術してください 1 小島直子	コモンズ	2000/06
13	車イスからの宣戦布告—私がいあわせであるために私は政治的になる 1 安積遊歩	太郎次郎社	1999/09
14	CPとして生きるっておもしろい! 1 古井正代	現代書館 自立生活運動と障害文化	2001/05 364-370
15	瞬間のかたち—劇団「態変」の軌跡 1 金満里	青土社 現代思想 vol26-2	1998/02 50-63
16	障害者であり、女であることの狭間で 1 内田みどり	現代書館 自立生活運動と障害文化	2001/05 280-288
17	障害者として生きることを死ぬまで追求めて 1 入部香代子	現代書館 自立生活運動と障害文化	2001/05 328-335
18	障害者の自己表現 1 金満里	否定される命からの問い—脳性マヒ者として生きて	2004/01
19	障害者の「自立生活」と生活の資源—多様で個別なその世界 1 田中恵美子	生活書院	2009/07
20	「障害者は生きているのが仕事」だってね 1 鈴木絹江	現代書館 自立生活運動と障害文化	2001/05 169-176
21	自立を選んだ障害者たち 1 山田昭義	愛知書房	1998/03
22	真空地帯 女性「障害者」渾身奮闘記 1 宮本洋子	障害者問題資料センターリボン	2010/05
23	空飛ぶトラブルメーカー 「障害」者で私生子の私(わたし)がいて 1 境屋純子	教育史料出版会	1992/05/25
24	他者への旅 1 飯多鶴子	筑摩書房	1979/01
25	抵抗の証—私は人形じゃない 1 三井絹子	千書房	2006/05
26	なんでもいけいけゴーだから 境屋うららさん(この人に聞く) 1 臼井久実子・山本創	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 21(4)	2006/02 38-41
27	23年間の札幌いちご会の運動 1 小山内美智子	現代書館 自立生活運動と障害文化	2001/05 146-153

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
28	日本一ヘタな歌手 1 濱田朝美	光文社	2009/09
29	脳性マヒ、ただいま一人暮らし30年 女性障害者の生きる闘い (障害のある) 1 本多節子	明石書店	2005/02
30	ピア・カウンセリングという名の戦略 1 安積遊歩・野上温子	青英舎版	1999/05/20
31	人であり女性であり障害をもつ私 - 北京会議から見えてきたもの 1 村山美和	国土社 月刊社会教育 Vol.40 No.9	1996/09/01 42~45
32	響きあう身体- <鼎談> 介助って何だろう? 1 朝霧裕・秋山由紀・市野川容孝	岩波書店 身体をめぐるレッスン4 交錯する身体	2007/02/27 87-142
33	誇りをだきしめて 1 村山美和	千書房	1997/02
34	私は女(新版) 1 岸田美智子・金満里	長征社	1995/04
35	<私>へー三十年について 1 安積純子	藤原書店 生の技法一家と施設を出て暮らす障害者の社会学	1990/10
36	視覚障害者の生活と住環境: 全盲の女性の場合 2 阿部祥子・角田美雪・小川信子	社団法人日本建築学会 学術講演梗概集 E建築計画 農村計画 Vol.1985	1985/09/01 189-190
37	視覚情報とセクシュアリティ- 視覚障害者の性概念形成過程に学ぶ- 2 佐藤(佐久間)りか	大阪府立大学女性学研究セン 女性学研究	2007/03 52-76
38	しなやかに生きる見えない女たち 2 大藪眞知子	社会福祉法人 視覚障害者支	2003/10/15
39	女性視覚障害者の視点からみた生活実態——聞き取り資料 女性障害者の自 2 秦安雄・伊藤智佳子・橋本尚美	日本福祉大学社会福祉学部〔 日本福祉大学社会福祉論集 104	2001/02 127-161
40	目の見えない私たちがつくった子育ての本 2 かるがもの会	かるがもの会	1998/12
41	アメリカ手話留学記 3 高村真理子	径書房	1993/03
42	医療現場で働く聞こえない人々- 社会参加を阻む欠格条項 3 聴覚障害をもつ医療従事者の会	現代書館	2006/01
43	聞こえない人生をおもろく 3 山岸かな子	現代書館 福祉労働 通号129	2010/12 110-111
44	高等教育における聴覚障害者の自立支援 3 吉田仁美	ミネルヴァ書房	2010/06
45	こころの耳 3 早瀬久美	講談社	2004/07
46	手話でいこう 3 秋山なみ・亀井伸孝	ミネルヴァ書房	2004/12
47	情報アクセス・コミュニケーション保障を権利に- 「人につく」サポートへの転換 3 臼井久美子	現代書館 福祉労働 通号129	2010/12 80-88
48	女性聴覚障害者の生活経営と生活主体形成 3 吉田仁美・伊藤セツ	日本家政学会誌 60(2)	2009/02 91-100
49	精神障害者サバイバー物語 4 月崎時央	太洋社	2002/03
50	精神障害のある人々の自立生活- 当事者ソーシャルワーカーの可能性 4 加藤真規子	現代書館	2009/09
51	精神障害をもつ独居女性をどう支えていく- 誌上ケース検討会(75) 4 奥川幸子	中央法規出版 ケアマネジャー Vol.8, No.6 通号 75	2006/6 46-53
52	統合失調症を生きる- 当事者・家族・医療の現場から 4 NHK「無理解をなくそう統合失調症」制作班	日本放送出版協会	2005/01
53	べてるの家の「当事者研究」 4 浦河べてるの家	医学書院	2005/02
54	いのちの手紙 障害者虐待はどう裁かれたか 5 サン・グループ裁判出版委員会	大月書店	2004/07

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
55	親になる：知的障害者子育て支援研究事業 5 全日本手をつなぐ育成会	手をつなぐ；号外	全日本手をつなぐ育成会 1999/03
56	地域で生活する中・軽度知的障害を持つ女性の性知識 5 長浜亜希子	母性衛生 Vol.43, No.2	日本母性衛生学会 2002/6 292-299
57	知的障害者の恋愛と性に光を 5 障害者の生と性の研究会		かもがわ出版 1996/08
58	知的障害女性と「売春」 5 山本讓司	新潮45 25(7)	新潮社 2006/07 164-171
59	知的障害のある女性のライフスタイル 5 林佳苗	教育福祉研究 No.8	北海道大学大学院教育学研究 2002/3 47-57
60	知的障害のある女性への育児支援に関する実態調査 5 木戸久美子・林隆	山口県立大学看護学部紀要 Vol.6	山口県立大学 2002/3 45-53
61	透明な鎖 障害者虐待はなぜ起こったか 5 高谷清		大月書店 1999/04
62	福祉を食う—虐待される障害者たち 5 毎日新聞社会部取材班		毎日新聞社 1998/08
63	もう施設には帰らない—知的障害のある21人の声 5 「10万人のためのグループホームを！」実行		中央法規 2002/12
64	私達、遅れているの？—知的障害者はつくられる(増補改訂版) 5 カリフォルニア・ピープルファースト		現代書館 2006/05
65	顔にあざのある女性たち「問題経験の語り」の社会学 6 西倉美季		生活書院 2009/07
66	自閉っ子、こういう風にできてます! 6 ニキリンコ・藤家寛子		花風社 2004/11
67	逝かない身体—ALS的日常生活を生きる 7 川口有美子		医学書院 2009/
68	ALS・告知・選択「人工呼吸器をつけますか？」 7 植竹日奈		メディカ出版 2004/03
69	健康障害のある女性の妊娠・出産への支援(コメディカルワークショップ1,第15 7 岩崎和代	女性心身医学 Vol.12, No.1・2	日本女性心身医学会 2007/4 230
70	重さくらべや後回しからは、何も生まれない—優生保護法問題をめぐる女性解 8 米津知子・大橋由香子	現代思想 vol26-2	青土社 1998/02/01 234~242
71	女のからだは女のもの—中絶の自己決定をめぐって 8 米津知子	月刊フォーラム Vol.9 No.6	フォーラム90s 1997/06/01 38~44
72	『廓清』における産児調節論の展開—障害者の生まれ生きる権利と女性の生 8 畠中暁子	キリスト教社会問題研究 通号50	同志社大学人文科学研究所 2001/12/01 73~94
73	勘違いだらけの母体保護法(国際的な潮流と日本の女性関連法の動き) 8 大橋由香子	女たちの21世紀 No.32	アジア女性資料センター 2002/10/01 31~33
74	完璧な人間のみ追及するあり方を問う・出生前診断の是非 8 矢野恵子	ヒューマンライツ 通号114	部落解放・人権研究所 1997/09/01 46~53
75	知っていますか？出生前診断 一問一答 8 優生思想を問うネットワーク		解放出版社 2003/02/20
76	視点 攻撃されるリプロダクティブ・ライツ—SOSHIREN女(わたし)のからだから 8 米津知子	インパクション 通号139	インパクト出版会 2004/01/01 1~3
77	出生前検査をめぐると論点—女性、障害者、親の立場 8 成富正信	ソシオサイエンス Vol.7	早稲田大学大学院社会科学研 2001 87~101
78	出生前診断という問題—女性運動と障害者運動の対立を解きほぐすために 8 林千章	女性学 17, 114-132, 2009	日本女性学会 2009 114-132
79	障害女性は今—誰の益になるのか、「産科医療補償制度」 8 瀬山紀子・臼井久美子	DPIわれら自身の声 24(4)	DPI日本会議 2009/03 44-46
80	障害女性は今—忘れてほしゅうない—隠されてきた強制不妊手術 8 利光恵子	DPIわれら自身の声 24(2)	DPI日本会議 2008/09 44-46
81	女性障害者の現状と今後—優生保護法から母体保護法への移行のなかで 8 高山 佳子・浜野 有夏	横浜国立大学教育紀要 37	横浜国立大学 1997/11 125-133

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
82	女性障害者の人権——正常子宮摘出問題 8 堀口 悦子	ジェンダーの視点から地域・生活 保健婦雑誌 52(11)	医学書院 1996/11 908-911
83	進められる命の質の選別——出生前診断の問題に女性・障害者の立場から取り 8 矢野恵子	現代書館 福祉労働 通号83	1999/06/01 136~141
84	性と生殖の権利を私たちの手に 8 米津知子	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 29-30
85	選択的人工妊娠中絶と障害者の権利：女性の人権の問題としての性選択との 8 笹原八代美	熊本大学 先端倫理研究：熊本大学倫理学研究室紀要 Vol.2	2007 160-181
86	優生思想、障害、女性の性と生殖の権利 8 米津知子	現代書館 否定される命からの問い—脳性マヒ者として生きて	2004/01 67-123
87	優生思想が生んだ女性障害者の子宮摘出——日本にもある強制不妊手術 8 堤 愛子	インパクト出版会 インパクション 105	1997/11 154-160
88	優生思想と障害者の「生」特集 障害者の「生」と「尊厳死」 8 安積遊歩	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 22(2)	2006/08 16-18
89	優生保護法が犯した罪—子どもをもつことを奪われた人々の証言 8 優生手術に対する謝罪を求める会	現代書館	2003
90	いのちに贈る超自立論 すべてのからだは百点満点 9 安積遊歩	太郎次郎社エディタス	2010/01
91	今こそ女性障害者の手にリーダーシップを! 9 中西由起子	日本障害者リハビリテーション ノーマライゼーション 17(9)	1997/09 78-80
92	医療 障害をもつ女性の妊娠・出産 9 末原則幸	全国障害者問題研究会 みんなのねがい 427	2003/03 58-61
93	沖縄 DPI女性障害者ネットワーク 列島縦断ネットワーク 9 長位鈴子	日本障害者リハビリテーション ノーマライゼーション 19(6)	1999/06 66-69
94	<語り>と<コミュニティ>の生成 —障害を持つ人々の語りを通して 9 瀬山紀子		1998
95	活動報告&資料集2007 9 DPI女性障害者ネットワーク		2008/05
96	関係の原像を描く—「障害」元学生との対話を重ねて 9 篠原睦治	現代書館	2010/05
97	軽度障害の意味世界 9 秋風千恵	ソシオロジ編集室 ソシオロジ vol52 No3 161	2008/02 53-69
98	声を生み出すこと—女性障害者運動の軌跡 9 瀬山紀子	障害学の主張 明石書店	2002/10/31 145-167
99	子どものある既婚女性障害者の抱える問題—ニーズに関する一考察 9 伊藤智佳子	日本福祉大学社会福祉学部〔 日本福祉大学社会福祉論集 102	2000/02 41-54
100	Count Us In! 障害のある女性の社会参加—女性起業家育成プログラムにおけ 9 菅由美子・赤堀正成(共訳)	労働科学研究所 ワークサイエンスレポート(1765), 1-41	2010 2
101	ジェンダー×女性×障害—複合差別の課題を考える(特集:激動) 9 臼井久実子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 25(1)	2009/06 25-29
102	ジェンダーの視点からみた障害者の貧困 9 臼井久実子・瀬山紀子	現代書館 福祉労働 通号123	2009/07 56-162
103	障害がある女性の貧困について 9 臼井久実子・瀬山紀子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 24(3)	2008/12 42-43
104	障害者権利条約の精神とジェンダー視点 9 青海恵子	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 16-20
105	障害者の「自立」と家族の「自立」 9 土屋葉	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 43-45
106	障害女性と貧困 9 瀬山紀子・臼井久実子	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.57	2009/03 25-27
107	障害女性の問題が認められたとき、私たちの生が変わる。私たちには力がある 9 DPI女性障害者ネットワーク	女の暦・姉妹たちよ2010—12月	2009/10
108	障害女性は今—映画上映会から at 岩手県盛岡市 9 臼井久実子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 24(2)	2008/09 47

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
109	障害女性は今-障害女性が「私」らしく生きる-複合的差別を超えて-女性分科 9 長谷由香	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 26(2)	2010/09 38-39
110	障害女性は今-障害女性に焦点をあてた一連の取材と昨年からの動きについて 9 臼井久実子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 23(4)	2008/03 44-46
111	障害女性は今-「障害のこと、女性であること」しゃべり場part2を開催して 9 堀内万起子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 25(3)	2009/12 34
112	障害女性は今-たんぼのしゃべり場part4-障害のこと、女性であること 9 伊藤好江・鷺原由佳	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 26(3)	2010/12 40-41
113	障害女性への暴力について 9 DPI女性障害者ネットワーク		2010/12/10
114	「障害のある女性にとって合理的配慮とは何か」ジェンダーと障害公開研究会 9 「ジェンダーと障害」公開研究会チーム		2010/12/04
115	「障害のこと、女性であること」～女性障害者交流会&しゃべり場、北海道函館 9 DPI女性障害者ネットワーク	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 25(2)	2009/09 19-21
116	障害をもつ女子の「ジェンダー化」と教育 9 松波めぐみ	ジェンダーで考える教育の現在-フェミニズム教育学をめざして	2008/12
117	障害をもつ女性の経験から、「複合的な抑圧」を考える 9 松波めぐみ	ヒューマンライツ No.234	2007/9 52～58
118	障害を持つ女性たちの今と未来(特集 女性の発言) 9 平野みどり	進歩と改革研究会 進歩と改革 通号 541	1997/01/01 33～38
119	女性週刊誌における障害者・難病者関連記事の分析とそれらが読み手に与え 9 徳田克己	財団法人学会誌刊行センター 読書科学 Vol.40 No.3	1996/01/01 92-102
120	女性障害者カンファレンス in 釧路——個性輝いての報告 9 香西・和則	北星学園大学社会福祉学会 北星社会福祉研究 14	1998/03 40-47
121	女性障害者とジェンダー 9 伊藤智佳子	一橋出版	2004/12
122	『女性障害者とジェンダー』著者インタビュー 伊藤智佳子さん 9 伊藤智佳子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 21(2)	2005/08 42-45
123	女性障害者の労働と生活——ILO委託研究結果をふまえて 障害者と職業12 9 小島蓉子	医学書院 理学療法と作業療法 22(12)	1988/12 811-816
124	女性と少女にも目を向けて 9 臼井久実子	福祉新聞社 福祉新聞連載(17):権利条約で社会を変えたい	2008/02/18
125	父83歳、ボケからの生還 9 樋口恵子	現代書館	2004/04
126	手のひらで知る世界 9 石井康子		1984/06
127	「当事者団体におけるジェンダーバランスに関する実態調査」のねらい 9 伊藤智佳子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 26(3)	2010/12 54
128	2009年、そして2010年へ 9 瀬山紀子・臼井久実子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 25(4)	2010/03 42-43
129	日本に於ける女性障害者運動の展開(1)70年代から80年代後半まで 9 瀬山紀子	日本女性学会 女性学 8	2000 30-47
130	日本の障害者雇用における男女差の検討-労働省平成10年度障害者雇用実 9 中野純子・伊藤純・伊藤セツ	昭和女子大学近代文化研究所 学苑 (737)	2001/12
131	日本の女性障害者が経験する抑圧:“Simultaneous Oppression”の視点から 9 岩田直子	沖縄国際大学 沖縄国際大学社会文化研究 Vol.8, No.1	2005/3 27-49
132	博士論文を書き終えて 排除・保護・書かれる存在から「無力ではない」書く主体 9 中野恵美子	城西大学ジェンダー・女性学研 Rim 11(1), 24-28, 2009-07	2009/07 24-28
133	ピア・カウンセリングって何? 9 堤愛子	青土社 現代思想 vol26-2	1998/02 92-99
134	必見! 近日刊行! DPI女性障害者ネットワーク 9 DPI女性障害者ネットワーク	活動報告&資料集 DPIわれら自身の声 24(1)	DPI日本会議 2008/06 43
135	広がり、深まる女性障害者のネットワーク 9 臼井久実子・瀬山紀子	アジア女性資料センター わたちの21世紀 No.52	2007/11/30 13-15

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
136	未来への戦略(Strategies for the Future)女性障害者分科会(特集 第19回RI世 9 岩田直子	日本障害者リハビリテーション協 リハビリテーション研究 No.106	2001/3 31~36
137	ライフストーリーとジェンダー(せりかクリティク) 9 桜井厚	せりか書房	2003/07
138	累犯障害者 9 山本譲司	新潮社	2006/09
139	私の体のまま抱いて 9 ニッポン人脈記取材班	朝日新聞社	2008/02
140	Poverty and Women with Disabilities 9 瀬山紀子・臼井久美子	Asia-Japan Women's Resourc Voices from Japan No.23	2009/09 28-30
141	からだ・私たち自身 10 ボストン女の健康の本集団	松香堂	1988/10/05
142	感情の便秘状態は体に悪い! 10 安積遊歩	飛鳥新社 異性愛をめぐる対話	1999/11/27 201-216
143	強制の下の身体 10 アリソン・ケイファー	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 34-42
144	車椅子で夜明けのコーヒー—障害者の性 10 小山内美智子	ネスコ	1995/04
145	ここまで来た障害者の恋愛と性 10 障害者の生と性の研究会	かもがわ出版	2001/08
146	視覚障害者と性—女性の立場から考える 10 瀬川三枝子	和光大学人文学部 和光大学人文学部紀要 通号18	1983/01/01 223~230
147	障害者が恋愛と性を語りはじめた 10 障害者の生と性の研究会	かもがわ出版	1994/08
148	障害者と性とノーマライゼーション(5): タブー視からの脱却「障害者の性」シン 10 河原正実	エイデル研究所 季刊セクシュアリティ 31	2007/04/15 124-127
149	障害女性とセクシュアリティの「間」に何があるのか 10 松波めぐみ	明石書店 セクシュアリティの障害学	2005/06 40-92
150	障害当事者運動はどのように性を問題化してきたか 10 瀬山紀子	明石書店 セクシュアリティの障害学	2005/6 126-167
151	女性障害者の性的介助の現場(セックスボランティア3) 10 河合香織	小学館 週刊ポスト	2010/09/06 127-130
152	性同一性障害を生きて 10 虎井まさ衛	春秋社 思想の身体 愛の巻	2006/07
153	誰も語らなかった身体障害者のSEX(3)女性身体障害者が告白「私のイクという 10 熊篠慶彦	光文社 週刊宝石 20(35) 通号911	2000/09/28 52~56
154	ラブ 語る。障害者と性 10 牧ローニ・河野秀忠	長征社	1983/04
155	笑顔を取り戻した女たち: マイノリティー女性たちのDV被害 11 東京自治研究センター・DV研究会	パド・ウィメンズ・オフィス	2007/06
156	トランスジェンダー・フェミニズム 11 田中玲	インパクト出版会	2006/03
157	私はマイノリティ あなたは? 11 李清美	現代書館	2009/12
158	「女・エロス」から「野の花ホーム」へ 12 吉清一江	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 49-52
159	女に選ばれる男たち—男社会を変える 12 安積遊歩・辛淑玉	太郎次郎社	2001/09
160	記憶のキャッチボール—子育て・介助・仕事をめぐって 12 青海恵子・大橋由香子	インパクト出版会	2008/04/30
161	月経なんていらぬ?—障害をもつ女たちの月経— 12 堤愛子	現代書館 女たちのリズム	1982/03/10 108-121
162	障害者運動と女性運動—30年の交差(座談会) 12 本山央子	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 4-12

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
163	障害者家族を生きる 12 土屋葉	勁草書房	2002/06
164	障害女性は今－わたしたちはよく似た経験をしてきている 12 堤 愛子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 23(1)	2007/06 40-45
165	障害をもつ子を産むということ 12 野辺明子・加部一彦・横尾京子	中央法規出版	1999/03
166	障害をもつ女性ともたない女性が情報と行動を共にするために 12 瀬山紀子	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.64	2010/12 34-35
167	女性と障害者が自立できるしくみづくりを 12 平野みどり	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 46-48
168	書評 愛の労働あるいは依存とケアの正義論 12 土屋葉	現代書館 福祉労働 通号129	2010/12 125
169	特集 女って大変。 12 澁谷智子・宮子あずさ・萱間真美・山本千恵	医学書院 精神看護 通巻78号	2010/11 31-43
170	のびやかな「自立生活」と「労働」をめざして 12 堤愛子	青弓社 働く／働かない／フェミニズム－家事労働と賃労働の呪縛？！	1991 287-297
171	「非障害者女性」として考える－障害女性、抑圧、フェミニズム 12 松波めぐみ	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 25-28
172	指先で紡ぐ愛 グチもケンカもキメキも 12 光成沢美	講談社	2003/07
173	女(わたし)のからだから合宿2009 12 女のからだから合宿実行委員会		2010/10
174	The Disability and Women's Movements: Crossroad of 30 Years 12 堤愛子・大橋由香子	Asia-Japan Women's Resourc Voices from Japan No.22	2009/04
175	アジアの障害者 13 中西由起子	現代書館	1996/05
176	アメリカからの看護研究レポート 精神障害をもつ女性ホームレスの精神保健二 へるす出版 13 長江 美代子・Barbara L. Dancy	臨床看護 29(7)	2003/06 114-1124
177	AD/HD&セラピー：女性のAD/HDと生活術 13 キャスリーン・ナデュー、パトリシア・クイン	花風社	2003/09
178	AD/HD&BODY：女性のAD/HDのすべて 13 キャスリーン・ナデュー、パトリシア・クイン	花風社	2003/07
179	オーストラリア・女性たちの脱施設化：知的障害と性のディスコース 13 ケリー・ジョンソン	相川書房	2006/01
180	解説「医学の暴力にさらされる女性たち」 13 大橋由香子	インパクト出版会 医学の暴力にさらされる女たち イタリアにおける子宮摘出	2002/10 218-235
181	韓国障がい者差別禁止法施行 女性障がい者の声も反映 13 キム・ヒョジン	ふえみん婦人民主クラブ ふえみん	2008/05/25 5面
182	韓国・障害女性共感の7年 13 障害女性共感運営会	アジア女性資料センター 女たちの21世紀 No.52	2007/11/30 21-24
183	クララは歩かなくてはいけないの?：少女小説にみる死と障害と治癒 13 ロイス・キース著	明石書店	2003/04
184	障害女性地域会議at香港2008 13 南雲君江	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 23(4)	2008/02 48-49
185	障害女性は今－韓国の女性障害者運動の動向 13 キム・ヒョジン	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 22(4)	2007/03 56-57
186	障害女性は今－DPI世界会議プレイベント・7/8公開セミナー 13 臼井久美子・瀬山紀子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 23(2)	2007/08 46-51
187	障害女性は今－バングラディッシュ訪問から 13 堀内万起子	DPI日本会議 24(1) DPIわれら自身の声 24(1)	2008/06 41-42
188	「障害と開発」における女性障害者のエンパワメント：アジア太平洋障害者セン 13 長谷川涼子	横浜国際社会科学学会 横浜国際社会科学研究所 social sciences 13(4/5)	2009/01 15-30
189	障害をもつ女性の力に限界はない－北京女性会議特集 13 安積遊歩	大阪部落解放研究所 部落解放 398	1995/12 66-73

通番	書籍名または文章タイトル	出版社	出版年
区分	編著者	掲載誌名	頁位置
190	女性障害者・人権・虐待(分科会記録) 13 DPI日本会議	現代書館 世界の障害者われら自身の声-DPI世界会議札幌大会報告集	2003 425-452
191	正常さに挑戦する女性たち-韓国障害女性運動史 13 金恩廷	明石書店 韓国女性人権運動史	2004/07
192	DPI女性障害者ネットワークによるDPI世界大会報告集会から 13 臼井久実子・瀬山紀子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 23(4)	2008/02 45-47
193	DPI世界会議韓国大会・「障害女性」分科会から 13 臼井久実子・瀬山紀子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 23(3)	2007/12 17-21
194	ヨルダン・パレスチナ 障害をもつアラブ女性の社会参加に向けて-その最新事 13 長田こずえ	日本障害者リハビリテーション協 ノーマライゼーションVol.18 No.8	1998/08/01 77~81
195	「新たな経済社会の潮流の中で生活困難を抱える男女について」最終報告に 14 DPI女性障害者ネットワーク	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 25(3)	2009/12 35-36
196	国連女性差別撤廃委、日本政府報告を審議 14 DPI女性障害者ネットワーク	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 25(2)	2009/09 51
197	今年がチャンス。女性差別撤廃条約を活用しよう! 14 瀬山紀子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 24(4)	2009/03 58
198	実現したい障害に基づく差別をなくす法律と条例-熊本県での条例づくりの取 14 平野みどり	現代書館 福祉労働 通号129	2010/12 89-98
199	障害者基本法改正への提言 14 DPI女性障害者ネットワーク		2010/11
200	障害者権利条約 Convention on the Rights of Persons with Disabilities 14 国連		2006
201	障がい者制度改革推進会議 障害のある女性が初めて議題に 14 臼井久実子・鷺原由佳	ふえみん婦人民主クラブ ふえみん	2010/08/05
202	障がい者制度改革推進会議の議論から 14 臼井久実子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 26(1)	2010/06 48-49
203	障害者制度改革の推進のための第二次意見 14 障がい者制度改革推進会議		2010/12
204	障害のある女性の権利について 14 平野みどり	明石書店 障害者の権利条約でこう変わるQ&A	2007/12/20 36-39
205	障害を持つ女性の視点で読む女性差別撤廃条約 14 蛭川涼子	解放出版社	2003/10/18 133-140
206	女性差別撤廃条約 Convention on the Elimination of All Forms of Discrimina 14 国連		1979
207	女性差別撤廃条約の取り組みと運動:国際人権条約の到達をふまえ障害者権 14 寺沢勝子	全国障害者問題研究会 障害者問題研究 Vol.34, No.1	2006/5 42-45
208	女性差別撤廃条約政府報告への勧告を読む 14 平野みどり	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 19(4)	2004/03 20-23
209	進行中!「第三次男女共同参画基本計画」中間整理にみる「障害女性」 14 臼井久実子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 26(1)	2010/06 57
210	第3次男女共同参画基本計画 14 内閣府男女共同参画局		2010/12/17
211	第3次男女共同参画基本計画パブリックコメント提出とその後 14 瀬山紀子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 26(2)	2010/09 52-53
212	「男女共同参画基本計画(第3次)」への提案 14 DPI女性障害者ネットワーク		2010/08
213	フェミニスト福祉政策原論:社会福祉の新しい研究視角を求めて 14 杉本貴代栄	ミネルヴァ書房	2004/3
214	複合差別を受けやすい女性の課題についての統計情報の提供を 14 瀬山紀子	DPI日本会議 DPIわれら自身の声 25(3)	2009/12 58
215	ポスト「第二次アジア太平洋障害者の十年」に向けて 14 中西由起子	現代書館 福祉労働 通号129	2010/12 122-124

表3 編著者リスト

赤堀正成：100	河合香織：151
秋風千恵：97	川口有美子：67
秋山なみ：46	河野秀忠：154
秋山由紀：32	河原正実：148
浅井貴代子：21	韓国女性ホットライン連合：191
安積純子：35	岸田美智子：34
安積遊歩：5,13,30,88,90,142,159,189	北村弥生：68
朝霧裕：32	木戸久美子：60
阿部祥子：36	キム・ヒョジン：181,185
アリソン・ケイファー：143	金恩廷：191
李清美：157	木村浩子：7
石井康子：126	木村涼子：116
市野川容孝：32,89	キャスリーン・ナデュー：177,178
伊藤悟：142	金満里：3,15,18,34
伊藤純：130	熊篠慶彦：153
伊藤セツ：48,130	クラウス・ドゥルナー：89
伊藤智佳子：21,39,99,121,122,127	クリスティアーネ・テラー：89
伊藤道哉：68	ケリー・ジョンソン：179
伊藤好江：112	光増正博：63
IMADAR-JC マイノリティ女性に対する複合差別プロジェクトチーム：205	国連：200,206
入部香代子：17	小島直子：12
岩崎和代：69	小島蓉子：123
岩田直子：131,136	小林繁市：63
植竹日奈：68	境屋純子：23
白井久実子：26,47,79,101,102,103,106,108,110,124,128,135,140,186,192,193,201,202,209	鷲原由佳：112,201
内田みどり：16	桜井厚：137
浦河べてるの家：53	佐々木千津子：89
NHK「無理解をなくそう統合失調症」制作班：52	笹原八代美：85
籾田鶴子：4,8,10,24	佐藤（佐久間）りか：37
遠藤邦江：89	サン・グループ裁判出版委員会：54
大橋由香子：70,73,89,160,170,174,180,	ジェンダーと障害公開研究会チーム：114
大藪真知子：38	篠原睦治：96
岡田なおこ：9	澁谷智子：169
岡原正幸：35	10万人のためのグループホームを！実行委員会：63
小川信子：36	障がい者制度改革推進会議：203
奥川幸子：51	障害者の生と性の研究会：57,145,147
小倉利丸：170	障害女性共感運営会：182
小山内美智子：27,144	定塚才恵子：174
尾中文哉：35	辛淑玉：159
女たちのリズム編集グループ：161	末木文美士：152
香西和則：120	末原則幸：92
加藤真規子：50	菅由美子：100
加藤雅枝：89	杉本貴代栄：213
加部一彦：165	鈴木絹江：20
亀井伸孝：46	青海恵子：104,160
萱間真美：169	瀬川三枝子：146
「からだ・私たち自身」日本語版翻訳編集グループ：141	瀬山紀子：79,94,98,102,103,106,128,129,135,140,150,166,186,192,193,197,211,214,
カリフォルニア・ピープルファースト：64	全国自立生活センター協議会：14,16,17
かるがもの会：40	全日本手をつなぐ育成会：55
	高谷清：61

高村真理子：41
高山佳子：81
立岩真也：35
田中恵美子：19,68
田中玲：156
玉井真理子：68
千葉敦子：4
聴覚障害をもつ医療従事者の会：42
月崎時央：49
土屋葉：68,105,137,163,168
堤愛子：87,89,133,161,164,170,174,
角田美雪：36
DPI：1
DPI 女性障害者ネットワーク：95,107,113,115,
134,195,196,199,212
DPI 日本会議：190,204
寺沢勝子：207
東京自治研究センター・DV研究会：155
徳田克己：119
利光恵子：80
虎井まさ衛：152
内閣府男女共同参画局：210
長位鈴子：93
長江美代子：176
長田こずえ：194
長谷由香：109
中西由起子：91,175,215
中野恵美子：132
中野純子：130
長浜亜希子：56
南雲君江：89,184
成富正信：77
ニキリンコ：66
西倉美季：65
ニッポン人脈記取材班：139
二文字理明：89
丹羽雅代：174
野上温子：30
野沢和弘：63
野辺明子：165
Barbara L. Dancy：176
橋本尚美：39
長谷川涼子：188
島中暁子：72
秦女雄：39
パトリシア・クイン：177,178
花崎三千子：63
濱田朝美：28

浜野有夏：81
林佳苗：59
林隆：60
林千章：78
早瀬久美：45
樋口恵子：6,125
平沢保治：89
平野みどり：118,167,198,204,208
蛭川涼子：205
藤家寛子：66
古井正代：14
古久保さくら：116
ボストン女の健康の本集団：141
堀内万起子：111,174,187
堀江まゆみ：63
堀口悦子：82
本多節子：29
毎日新聞社会部取材班：62
牧口一二：154
松波めぐみ：116,117,149,171
マリアローザ・ダラ・コスタ：180
三田優子：63
三井絹子：25
光成沢美：172
宮子あずさ：169
宮本洋子：22
武藤香織：68
村山美和：2,31,33
本山央子：162
森元美代治：89
梁瀬竜太：142
矢野恵子：74,83
山岸かな子：43
山田昭義：21
山本勝美：11,89
山本讓司：58,138
山本千恵子：169
山本創：26
優生思想を問うネットワーク：75
優生手術に対する謝罪を求める会：89
横尾京子：165
横田弘：18,86
吉清一江：158
吉田仁美：44,48
米津知子：70,71,76,84,86,89
ロイス・キース：183
女（わたし）のからだから合宿実行委員会：173

表4 映像作品リスト

このリストは制作者取扱者が公開している作品案内をもとに要約して掲載している。

制作年	タイトル	制作	取扱	特記事項
2000	かがやく女たち	福祉のまちづくりの会	ビデオ工房AKAME	この作品は、福島県船引町にある自立生活センターが作成した障害を持つ女性の自立と人権についての力作ドキュメンタリー。ビデオでは、現在、社会的にも大きな問題となっているドメスティック・バイオレンスや障害を持つ女性が子どもを産み、育てる過程で直面するさまざまな優生思想の壁、そして、1人の女性が自立しようとするときに立ちはだかるさまざまな壁と、それをのり越え、生きてきたくかがやく女たち>の声がいきいきと描かれている。VHS 30分
2002	亀姉妹(タートルシスターズ)	女性映像集団WOM・障害女性共感	ビデオ工房AKAME	「独立したい！ 自分だけの生活と空間を持ちたい！そして一人で移動したい！」韓国ソウル近郊で、3人の女性障がい者が役割分担し、助け合いながらの共同生活をはじめて5年。彼女たちは力を合わせて一つ一つ現状を変化させ、人々の意識を変えようとしている。日本語字幕あり VHS・DVD 45分
2004	忘れてほしくない～隠されてきた強制不妊手術～	優生思想を問うネットワーク	ビデオ工房AKAME	広島で自立生活を送る一人の女性障害者がいる。彼女は、20歳の時に強制的に不妊手術を受けさせられた。このビデオは彼女の日常と、この問題解明に向かって活動する姿を追う中で、日本における強制不妊手術の実態に迫る。また、アニメーションの手法も用いて、その歴史や社会的背景をわかりやすく描きながら、今もある優生思想の存在を私たちに問いかける。全編字幕つき VHS 24分
2007	シカゴ発！セックスと障害とビデオテープ	ビヨンドメディア・エデュケーション&エンパワード・フェフェス	FAV連連影展	シカゴの若い障害女性たちが、セックスと障害を大胆かつユーモラスに探求。「パートナーがいてもいなくても、女の人にはなかなか気持ちよさを感じられない」「女性として快樂を得る力を皆もつてる。でも、障害女性はそういうことをほとんど教えてもらえない」・・・セックスをめぐる思い、人々へのインタビュー、障害女性が過去に経験させられた強制不妊手術、女性のためのセックス・グッズ・ストアの見学。楽しくてためになる(?!)すてきな教育ビデオ。日本語字幕あり DVD 35分
2010	ここにおるんじやけえ	監督/下之坊修子 制作/映像発信でれれ	映像発信でれれ	2004年に制作された「忘れてほしくない」の続編。60才を越えた今、髪の毛をショッキングピンクに染め、ジーパンをはき、広島球場へ何回も通う。体調はだんだん悪くなっている。それだからこそよけいに短い言葉で的確に周りの人たちや介助者とコミュニケーションをとり、人間関係を築いている。時々引きこもりながら落ち込みながら、それでも行動したい、生きたい、やりたいことがあるという強い意思を持っている。そんな佐々木千津子さんが「ここにおる」という日常を追ったドキュメンタリー。DVD 97分
2011	昭和を切り拓いたろう女性からあなたへ	撮影/編集:今村綾子	企画:ろう女性史編纂プロジェクト	先達のろう女性3名と、書誌リスト44:の筆者を含む次世代を担う4名が登場するドキュメンタリーで、手話と日本語字幕とで見ることができる。DVD 60分 http://bit.ly/gseuc6

V. 平成 22 年度 障害保健福祉総合
研究推進事業・外国人研究者招へい

公開研究会